

社会教育クローズアップ

家庭教育支援研究協議会を開催しました

9月27日(木)に、十勝総合振興局で家庭教育支援研究協議会を開催しました。3名の講師を迎え、家庭教育支援のポイントや今後の方向性についてパネルディスカッションを行いました。

講師



**子育てサロン
おとぶけ通りくるみ**
(音更町) 

家庭教育支援チーム

代表
中村 友子 氏

Instagram

**足寄町教育委員会
家庭教育支援事業すくすく**
(足寄町) 

生涯学習担当主査
遠藤 浩一 氏

HP

**子育て支援団体
ママのHOTステーション**
(上士幌町) 

代表理事
倉嶋 香菜子氏

Instagram

Q1: 家庭教育支援のポイント

子どもを連れて保護者が来られる場所を作りたい思いがあり、子ども福祉課に相談し、一緒に動いてもらうことができました。

今の活動の主軸は、①傾聴する、②子育て力の底上げを図る、③人と人とをつなぐ、④人と地域をつなぐの4点です。

町民のニーズに応え、事業を進めました。町の長期計画を踏まえ、乳幼児の保護者が悩まないように支援することになりました。

「夜泣きを泣き止ませるのがしんどい」などの参加者の声を把握し、ボランティアや講師などにアドバイスをしてもらっています。

コロナ禍の影響で、保護者は交流する場がなく、困り感をもっていました。地域おこし協力隊の実践を踏まえ、高齢者と赤ちゃんの相性の良さ、多世代の関わりが持続の要因と考え、保護者が交流できる場を設けたところ、相談し合えるきっかけづくりになりました。

Q2: 今後の家庭教育支援の方向性

活動開始から5年経ち、利用者参加型サロンへと形が変わってきました。自然にボランティアとして活動してくれる方が増えています。先輩を参考に、自ら動き出す新人ボランティアもいます。

この町で子育てをした保護者が、子育てを振り返ったときに人とのつながりを感じてほしいです。

令和5年9月現在、11名の利用者登録があります(「すくすく」は登録制)。困り感のある保護者に事業の取組が届けば良いなと思い周知していますが、全てをカバーできていないとは思っていません。今後、現時点で事業を利用していない方の悩みを拾っていただける方法はないか考えています。

活動するときには、既存の事業と曜日が重ならないよう工夫しています。

また、産前からコミュニティを作っておくことで、障がいをもったお子さんの保護者が孤立せず、周囲の保護者も障がいに対する理解が深まるなどの利点もあります。

今後も、保護者が「ふらっと寄れる場所」を目指して活動していきます。

【まとめ】パネルディスカッションをとおして、3町の取組は活動形態が異なるものの、「ビジョンをもち、様々な機関や団体と協働しながら進めている」「参加者が、ボランティアやスタッフになり持続可能な事業になっている」などの共通項があることがわかりました。

家庭教育支援チームの設置を進めています！

子どもたちの健やかな育ちを支え、すべての保護者が安心して家庭教育を行うことができるよう、地域において主体的に家庭教育支援の取組を行う「家庭教育支援チーム」の設置が促進されています。十勝管内では、**令和4年度に「子育てサロンおとぶけ通りくるみ」が登録されており、今後も登録を進めていく予定です。**



文部科学省 HP
家庭教育支援チーム

【参加者の感想】
それぞれの立ち上げの様子や現在の状況、課題を聞かせていただき、ヒントをいただきました。



【発行・お問合せ先】
北海道教育庁十勝教育局
北海道教育庁十勝教育局
北海道教育庁十勝教育局教育支援課社会教育指導班(田尾・皆川)
住所：〒080-8588 帯広市東3条南3丁目
電話：(0155) 26-9243 (直通) 平日 8:45～17:30
E-mail：minagawa.keita@pref.hokkaido.lg.jp